

「丘の上のカフェ・シャローム」
カフェスタッフ 石井 瑠美

私は50才の時、乳がんの手術を受けました。乳がんと言われた時の心の動揺は今でも鮮明に思い出します。「がん＝死」におびえていました。

私はがんになる7年前に胃潰瘍がきっかけで同院の神経科に通院していたのでいつまでも落ち着かない私に医師はその主治医との面談を勧めて下さいました。医師の前で下を向き何も言えずにいた私にしばらくの沈黙の後、ひとこと、医師は「おつらいですね」と言って下さったので、私の固く緊張していた心がゆるゆると崩れ、涙がとめどもなく流れました。

手術後は経過もよく無事に10年が過ぎましたが今度は夫が急性骨髄性白血病と診断されました。私はその時、「病気で辛いのは本人だ、夫の病気が完治するまで私は絶対に泣かない」と心に誓いました。夫は骨髄移植をして壮絶な戦いを乗り越え7年間順調な経過を辿りましたが8年目に再発し一昨年亡くなりました。

がん哲学外来のカフェは、かつて私に「おつらいですね」と言ってくれた先生のように皆さんが「おつらいですね」と無言のうちに言ってくれているような気がします。「大丈夫、がんばれ。きっと良くなる」という前につらい気持ちを共有してくれる人がいる場所であることに気づきました。嬉しかったです。

念願かなって開催にこぎつけようとしている私たちの「丘の上のカフェ・シャローム」も先輩カフェの後をついて一生懸命やっていきたいと思っています。

「八ヶ岳メディカルカフェ」を開設します！
八ヶ岳伝道所 牧師 山本 護

「八ヶ岳メディカルカフェ」を開設します。

カフェの場所は日本基督教団八ヶ岳伝道所で、伝道所とは小さな教会のことです。八ヶ岳南麓、山梨県北杜市の福祉村(保育園、老人ホーム、障がい者授産施設)に隣接した地に建っています。伝道所の礼拝堂や集会所、庭や敷地内の林を気持ちよく使って、月に一度くらいのペースで「がん哲学外来メディカルカフェ」を開く予定です。

カフェスタッフの経験者はおらず、いろいろな方々に助けられて、手さぐりしながらの開設です。メディカルカフェ開設のきっかけは、伝道所のメンバーMさんが、がんになり、当人と伝道所の仲間たちが松本の「みずたまカフェ」に参加して感銘を受け、この地でもメディカルカフェを開きたいという願いが高まり開設に至りました。幸いにして、経験豊富な「佐久ひとときカフェ」や「みずたまカフェ」の方々にも参加して頂けることになり、初日の3月21日(木・祝)には樋野興夫先生の講演と共にカフェを開きます。

「八ヶ岳メディカルカフェ」の代表者は牧師である私ですが実質的には責任者であるMさんが中心になって動き始めます。皆様の手出しや口出し、きびしくあたたかいお助けをどうかたっぷりいただけますよう、
！よろしくお願ひいたします！

第5回信州大学がん哲学外来
in軽井沢



がん哲学外来
「丘の上のカフェ・シャローム」

2019年5月開設記念 第1回 5月8日(水) 午前10～12時

【特別講演会】 会場 同仁キリスト教会 2F

個性を引き出す
～がん哲学のエッセンス～

ひのおきお
講師：樋野興夫先生

順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授
(2019年3月31日で退任される予定です)
一般社団法人がん哲学外来理事長



日時：2019年4月6日(土) 1:00PM～2:30PM

参加無料(予約は必要ありません)

場所：同仁キリスト教会(同仁美登里幼稚園となり)

同仁キリスト教会までのアクセス

◎駐車場のご利用はできません。お車のご来場はご遠慮下さい。



がん哲学メディカルカフェとは
がん患者や家族、友人、医療従事者がつづいた雰囲気の中でお茶を飲みながら病気のこと、不安やいろいろな思いを語り合い、聴き合う場です。帰るころには心が軽くなっているのを感じます。

お問い合わせはこちらへ

Tel: 03-3943-1879

e-mail: doujin2019@gmail.com

●主催 一般社団法人キリスト教同仁社団

●後援 一般社団法人がん哲学外来

<編集後記>

◇予約で満席の「信州大学がん哲学外来 in 軽井沢」でした。「テレビ信州」の取材も入り翌日の11日(月)夕方のニュース番組で報道されました。

◇早速、土屋芳美さん(小諸市在住)が番組の動画をFacebookに投稿するとがん哲学関連の方は元より、見知らぬ方たちから「がん哲学外来のことが良く分かった」「樋野先生が優しい方だった」と次々に書き込みがされた、そうです。編集子はひとりポカンとして、「世の中すっかり変わった!」と。(星野 昭江)